



## 平成22年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成22年7月30日

上場会社名 株式会社ノバレーゼ 上場取引所 東  
 コード番号 2128 URL <http://www.novarese.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浅田 剛治 (TEL) 03(5524)1122  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田中 雅樹 配当支払開始予定日 —  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月11日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年12月期第2四半期の業績（平成22年1月1日～平成22年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第2四半期	4,781	△4.3	552	△30.8	561	△30.9	329	△25.0
21年12月期第2四半期	4,994	22.2	798	50.1	813	47.8	438	44.6

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年12月期第2四半期	3,253	46	3,239	85
21年12月期第2四半期	8,745	27	8,620	75

(注) 平成21年7月1日付で、株式1株につき2株の株式分割を行っております。前期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における前第2四半期累計期間の1株当たり四半期純利益金額は4,372.63円、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は4,310.38円であります。

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
22年12月期第2四半期	7,399		4,396		59.4	43,073	27	
21年12月期	7,924		4,151		52.4	41,251	94	

(参考) 自己資本 22年12月期第2四半期 4,396百万円 21年12月期 4,151百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
21年12月期	—		0	00	—		1,000	00	1,000	00
22年12月期	—		0	00						
22年12月期(予想)					—		1,200	00	1,200	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

### 3. 平成22年12月期の業績予想（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	11,000	3.8	1,900	7.4	1,880	4.5	1,100	14.3	10,930	70

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：有

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の摘要の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：無

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年12月期 2 Q	106,386株	21年12月期	104,940株
-------------	----------	---------	----------

② 期末自己株式数

22年12月期 2 Q	4,306株	21年12月期	4,306株
-------------	--------	---------	--------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

22年12月期 2 Q	101,226株	21年12月期 2 Q	50,190株
-------------	----------	-------------	---------

(注) 平成21年7月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間（平成22年1月1日～平成22年6月30日）におけるわが国経済は、海外経済の改善や緊急経済対策の政策効果を背景に、景気は着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつある傾向が見られ、また、企業収益も改善するなど回復基調で推移する一方、雇用情勢に関しては依然として失業率が高水準にあるなど厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社におきましては、昨年より開業準備に取り組んでおりました「広島モノリス」（広島市東区）が2月にオープンし、昨年10月にオープンした「三瀧荘」（広島市西区）とあわせ中国エリアにおいても顧客拡大および収益向上に努めました。また、ブライダルギフト関連につきましても提携による内製化を図るべく、3月には自社で直接メーカーより買い付け、引出物として取り扱うギフト総合誌を作成いたしました。さらに、顧客と継続取引の機会を増加させることと、施設の稼働率向上を目的として、結婚式前のご新婦様やご友人が開催する「Bride's Girls Party（ブライズ ガールズ・パーティー）」の企画商品を開発し、平成22年9月より、当社施設で本格運用を行う予定です。

これらの営業活動の結果、期初計画に対しては概ね達成をすることができたものの、婚礼プロデュース事業、婚礼衣裳事業における前事業年度末の繰越受注高減少の影響を受けて、売上高は4,781百万円（前年同四半期比4.3%減）となりました。

利益面につきましても、売上高が前期に比べ減少したこと、また、主に「広島モノリス」開業に伴うイニシャルコストが通常稼働に先行して発生したため、営業利益は552百万円（前年同四半期比30.8%減）、経常利益は561百万円（前年同四半期比30.9%減）、四半期純利益は329百万円（前年同四半期比25.0%減）となりました。

なお、事業の種類別売上高については以下のとおりであります。

#### ①婚礼プロデュース事業

当第2四半期累計期間におきましては、前事業年度に開店した都市型ゲストハウス1店舗および再生型施設1店舗ならびに当第1四半期会計期間に開店した都市型ゲストハウス1店舗が、それぞれ業績に寄与いたしました。前記のとおり繰越受注高の減少により、婚礼プロデュース事業の売上高は1,841百万円（前年同四半期比3.6%減）となりました。

#### ②婚礼衣裳事業

当第2四半期累計期間におきましては、前事業年度に開店したドレスショップ『ノバレーゼ』1店舗が業績に寄与いたしました。前記のとおり繰越受注高の減少により、婚礼衣裳事業の売上高は963百万円（前年同四半期比10.0%減）となりました。

#### ③ホテル・レストラン事業

婚礼プロデュース事業と同様に、前事業年度に開店した都市型ゲストハウス1店舗および再生型施設1店舗ならびに当第1四半期会計期間に開店した都市型ゲストハウス1店舗が、それぞれ業績に寄与いたしました。繰越受注高の減少により、ホテル・レストラン事業の売上高は1,976百万円（前年同四半期比1.9%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### ①資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第2四半期会計期間末における資産総額は7,399百万円となり、前事業年度末に比べ524百万円減少いたしました。その主な要因といたしましては、有形固定資産の取得および前事業年度の業績に基づく法人税等の納税により現金及び預金が814百万円減少したこと、また、主に土地の取得により有形固定資産が201百万円増加したことによるものであります。

##### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債総額は3,002百万円となり、前事業年度末に比べ770百万円減少いたしました。その主な要因といたしましては、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）が255百万円、未払金が262百万円それぞれ減少したことによるものであります。

##### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産総額は4,396百万円となり、前事業年度末に比べ245百万円増加いたしました。その主な要因といたしましては、当第2四半期累計期間において四半期純利益を329百万円計上したこと、前事業年度に係る剰余金の配当を100百万円実施したことによるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、742百万円となり前事業年度末に比べ814百万円減少いたしました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は205百万円となりました。主な要因は税引前四半期純利益を561百万円計上したこと、また、前受金の増加が169百万円となりましたが、前事業年度の利益に関する法人税等の確定支払額が470百万円となったことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は683百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が631百万円、無形固定資産の取得による支出が24百万円、差入保証金の差入れによる支出が28百万円発生したことによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は336百万円となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出が255百万円、配当金の支払額が98百万円あったことによるものであります。

## （3）業績予想に関する定性的情報

平成22年12月期（平成22年1月1日～平成22年12月31日）の通期業績予想につきましては、平成22年1月29日公表「平成21年12月期 決算短信（非連結）」の通期業績予想数値を以下のとおり修正することといたしました。

売上高につきましては、平成22年11月開業を予定しておりましたアマンダブルー鎌倉の開業時期が平成23年3月に変更になったこと等の要因により売上高が500百万円減少する見込であります。

利益面につきましては、自社で直接メーカーより買い付け、引出物として取り扱うギフト総合誌を作成し、プライベートギフト関連の提携による内製化を図り、引出物の仕入れに関するフローを変更したこと等による売上原価の削減および販売費及び一般管理費につきましては、新店開業に伴うイニシャルコストが発生しないこととなったことおよびその他経費について見直しを実施したことにより営業利益、経常利益および当期純利益につきましては、前回発表の数値と同等になると見込んでおります。

（通期）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想（A）	11,500	1,900	1,880	1,100	10,930	70
今回修正予想（B）	11,000	1,900	1,880	1,100	10,930	70
増減額（B－A）	△500	—	—	—	—	—
増減率（%）	△4.5	—	—	—	—	—
前期実績	10,596	1,769	1,799	962	9,583	28

## 2. その他の情報

### （1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

### （2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	742,995	1,557,738
売掛金	110,254	153,313
商品	59,578	30,389
原材料及び貯蔵品	76,292	86,090
その他	243,847	193,898
流動資産合計	1,232,968	2,021,429
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,750,982	3,471,777
土地	767,790	571,866
建設仮勘定	105,759	445,702
その他（純額）	563,988	497,612
有形固定資産合計	5,188,521	4,986,959
無形固定資産	63,674	74,452
投資その他の資産		
関係会社株式	45,060	45,060
差入保証金	530,461	501,757
その他	338,655	294,532
投資その他の資産合計	914,177	841,350
固定資産合計	6,166,373	5,902,761
資産合計	7,399,341	7,924,191
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	454,606	488,852
1年内返済予定の長期借入金	357,900	430,800
未払金	400,100	662,787
未払法人税等	203,217	487,724
前受金	639,371	470,305
賞与引当金	55,000	99,500
その他	117,390	173,423
流動負債合計	2,227,587	2,813,393
固定負債		
長期借入金	697,409	879,692
その他	77,426	79,758
固定負債合計	774,835	959,450
負債合計	3,002,422	3,772,843
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	595,070	586,634
資本剰余金	454,618	446,184
利益剰余金	3,457,139	3,228,438
自己株式	△109,909	△109,909
株主資本合計	4,396,919	4,151,347
純資産合計	4,396,919	4,151,347
負債純資産合計	7,399,341	7,924,191

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
売上高	4,994,339	4,781,368
売上原価	2,150,541	2,109,963
売上総利益	2,843,798	2,671,404
販売費及び一般管理費	2,045,567	2,119,157
営業利益	798,230	552,247
営業外収益		
受取利息	3,029	2,435
受取手数料	13,203	11,650
その他	6,945	4,739
営業外収益合計	23,178	18,825
営業外費用		
支払利息	7,572	8,806
その他	244	422
営業外費用合計	7,816	9,228
経常利益	813,592	561,844
特別利益		
固定資産売却益	—	22
特別利益合計	—	22
特別損失		
固定資産除却損	24,018	99
特別損失合計	24,018	99
税引前四半期純利益	789,574	561,767
法人税、住民税及び事業税	372,210	193,999
法人税等調整額	△21,564	38,433
法人税等合計	350,646	232,432
四半期純利益	438,927	329,334

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	789,574	561,767
減価償却費	216,897	261,390
賞与引当金の増減額 (△は減少)	77,000	△44,500
受取利息及び受取配当金	△3,029	△2,435
支払利息	7,572	8,806
固定資産売却損益 (△は益)	—	△22
固定資産除却損	24,018	99
売上債権の増減額 (△は増加)	37,377	43,058
たな卸資産の増減額 (△は増加)	6,190	△19,391
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	20,252	△87,414
仕入債務の増減額 (△は減少)	19,225	△34,246
未払金の増減額 (△は減少)	△163,122	△69,729
未払費用の増減額 (△は減少)	24,451	△13,064
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△69,621	△44,328
前受金の増減額 (△は減少)	131,421	169,066
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	6,695	1,548
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	4,743	△48,438
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△3,578	△2,332
小計	1,126,067	679,834
利息及び配当金の受取額	3,017	2,435
利息の支払額	△9,053	△8,823
訴訟和解金の受取額	2,400	2,400
法人税等の支払額	△474,604	△470,627
営業活動によるキャッシュ・フロー	647,827	205,219
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△845,971	△631,238
有形固定資産の売却による収入	—	872
無形固定資産の取得による支出	—	△24,036
差入保証金の差入による支出	△147,951	△28,944
差入保証金の回収による収入	12,565	240
投資活動によるキャッシュ・フロー	△981,356	△683,106
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	600,000	—
長期借入金の返済による支出	△350,575	△255,183
株式の発行による収入	5,460	16,870
自己株式の取得による支出	△40,429	—
配当金の支払額	△40,054	△98,544
財務活動によるキャッシュ・フロー	174,401	△336,856
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△159,128	△814,743
現金及び現金同等物の期首残高	1,484,788	1,557,738
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,325,659	742,995

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。